

# 電動化に向けたソフトウェア人財育成

電動システム開発本部

## 社内人財のリスキングで自動車産業の未来を開きます！

「カーボンニュートラル」実現のカギを握る電動システムの開発には、ソフトウェアエンジニアが必要不可欠です。しかしエンジン用メカ部品を基幹事業としてきた当社にはソフトウェアエンジニアが極端に少なく、業界全体でも人財が不足しているため、人財確保に課題がありました。

そこで、3年間で100名のソフトウェアエンジニア育成を目標とした「ソフトウェアファースト100（SWF100）」を2022年度に立ち上げ、社内の若手～中堅社員でソフトウェアエンジニアへの転身を希望する人財のリスキングと、ソフトウェア開発職種で採用した新入社員の育成に取り組みました。

まず育成実行の特命チームを設置、会社が求める人財像の定義から始め、育成方針、目標、方法を検討。実際に育成を進めながらより良い方法へ修正を続けました。

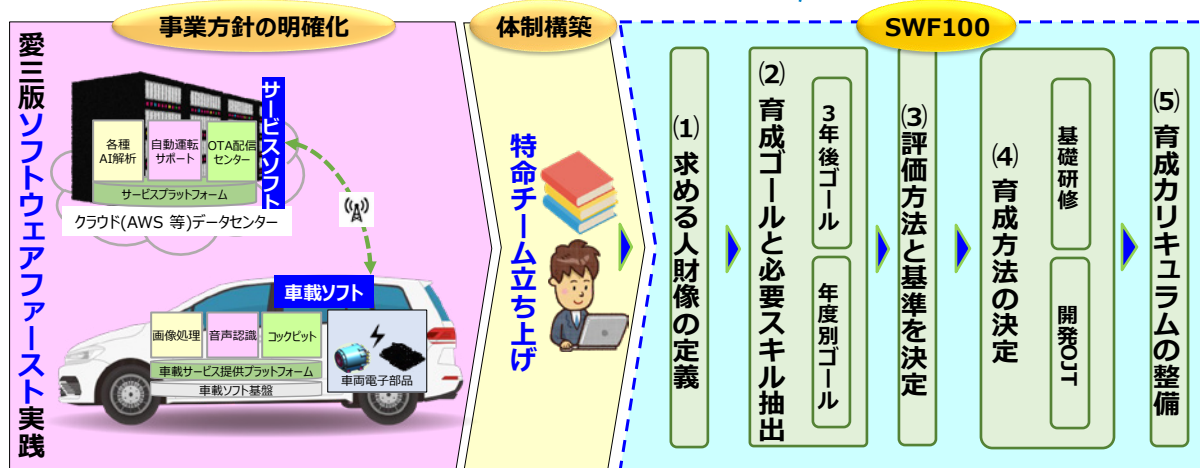
育成方針は01に示した形とし、育成期間中はスキル習得状況を見える化し、不足しているスキルエリアや個人の適正を考慮した題材選定や指導を行いました。活動最終年度には、リーダーの下で実製品開発に参画できるまでに成長し、24年度で3年間の活動は一旦終了。目標とした人数とスキルレベルをほぼ達成できました。今後は組織力強化を目指し、能力強化とリーダー層育成に力を入れていく予定です。

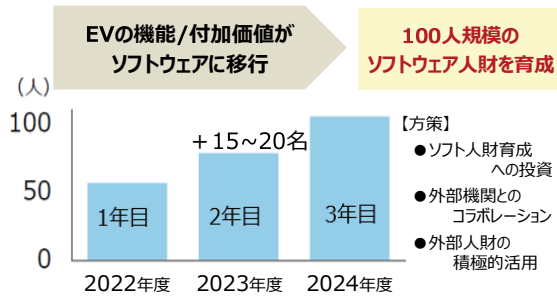
### 実績ハイライト

## 01

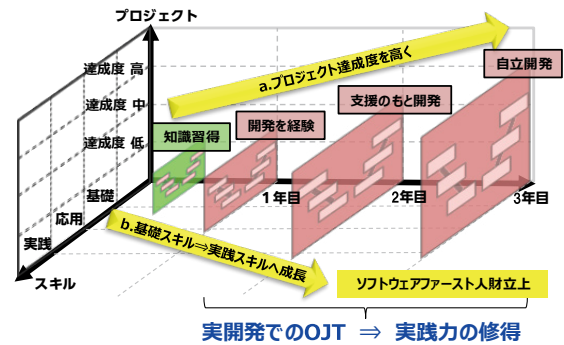
求める人財像から  
育成ゴール・  
育成方法を決定

計画段階では、最初に目標となる求める人財像、3年間の育成ゴール、評価方法、育成カリキュラムを明確化しました。人財像は、愛三工業が強みとしてきた技術をベースにソフト技術を加え、「車載システムが自立開発できるレベルのスキルを有する人財」と定義しました。





年度毎のゴールを定め、3年間で自立開発できる人材を育成



## 02

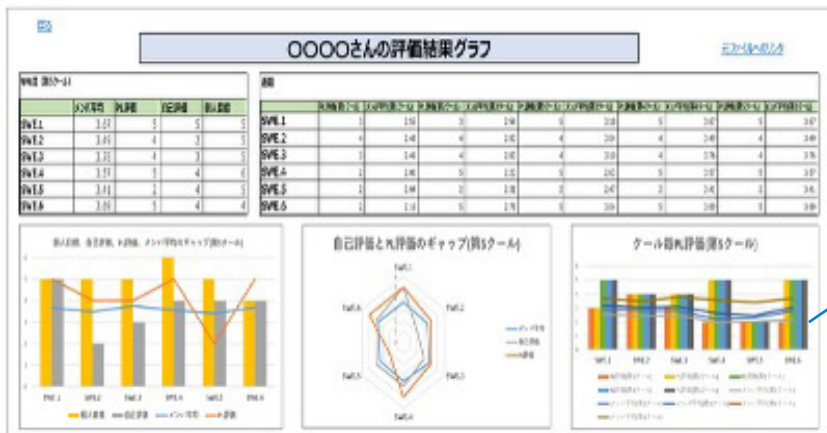
### 実践力強化を重視し OJT 中心の教育

短期間で実践力を身に付けるために育成カリキュラムは OJT を中心としました。OJT に必要な基礎技術は、OJT 前に 3 カ月間実施する基礎教育で習得。開発テーマは事業戦略ロードマップを元に設定し、チーム毎にプロジェクトリーダーの指導の下で愛三開発プロセスに則り開発を進めます。クールと呼ばれる 6 ～ 9 カ月毎の開発を繰返し経験を重ねることでレベルアップを図ります。

|     | 第1クール<br>要素技術開発<br>2022/07-12                         | 第2クール<br>リアルテーマ開発<br>2023/01-06 | 第3クール<br>機能対応準備<br>2023/07-12 | 第4クール<br>機能対応準備<br>2024/01-09 | 第5クール<br>機能対応準備<br>2024/10-03 |
|-----|-------------------------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| CN  | 機器制御                                                  |                                 |                               |                               |                               |
| E   | 駆動制御<br>モーター<br>インバータ<br>電力変換<br>電力制御<br>電力供給<br>電源管理 |                                 |                               |                               |                               |
| 共通  | 通信PF                                                  |                                 |                               |                               |                               |
| PF  | 制御PF                                                  |                                 |                               |                               |                               |
| CAS | 自動運転<br>サービス<br>OUT-CAR                               |                                 |                               |                               |                               |

仮想テーマ  
要素技術開発

実製品テーマ  
機能開発



## 03

### 育成状況の可視化とフォローアップ

メンバーの評価はあらかじめ定義した基準を基に見える化して個人適正に応じたフォローを実施。基準は業界標準 ETSS(Embedded Technology Skill Standards) を拡張して適用。

### 成果

- 3年間で、リスキルメンバーのほぼ全員が目標とする中級レベルに成長。
- 2022年後半からは、複数の実製品開発テーマにも戦力として参画。
- 基礎研修とOJTによる教育カリキュラムの仕組み構築を完了。

### 今後の対応

- 量産開発増加や車載セキュリティなどの新たな要求、SDV や生成系 AI などの環境変化にも対応できるようにさらにレベルアップを図ります。
- 重点活動として、人材強化（マネージャー育成、スペシャリスト育成など）と組織強化（品質開発プロセス、管理システム活用など）に取り組み、新規事業として電動化製品開発を加速させます。